

速報第5号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成19年度病虫害発生予察速報第5号について

このことについて、病虫害発生予察速報第5号を発表したので送付します。

水 稲

- 1 病虫害名：トビイロウンカ（海外飛来性害虫）
- 2 発生地域：県下全域
- 3 発生程度：並（筑後地域 やや多）
- 4 速報の根拠
 - (1) 8月5半旬定期調査（59地点）の結果、10株当たり払い落とし成幼虫数は1.6頭（平年1.5頭、前年0.6頭、前々年1.0頭）で平年並、前年及び前々年より多い。中には、要防除水準を超えているほ場もある。発生ほ場率は、71.2%（平年37.2%、前年42.4%、前々年38.3%）で平年、前年及び前々年より高い。（別表）
 - (2) 特に筑後地域においては、10株当たり払い落とし成幼虫数は3.0頭で県平均の約2倍、発生ほ場率は93.3%で県平均より高かった。
 - (3) 福岡管区气象台8月24日付け発表の1か月予報では、気温は平年並が高く、トビイロウンカの増殖しやすい条件にある。
- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) トビイロウンカは、低密度であっても増殖率が高く、株元に集中して加害し、秋には高密度となって坪枯れを引き起こす。8月5半旬の調査では、中～老齢幼虫が多かった。パターン図（平成19年8月1日付病虫害発生予報第5号参照）から想定すると、薬剤防止効果の高い3世代幼虫発生期は9月上旬頃である。
 - (2) 虫の齢期や発生密度は、地域間、ほ場間に差があるので、それぞれのほ場を見回り、発生状況を必ず確認する。要防除水準を超えているほ場は防除を行う。
要防除水準： 8月下旬（中老齢幼虫） 100株当たり100頭
中晩生品種は、収穫まで期間が長いので発生状況に注意する。
 - (3) 出穂後は、薬剤が株元に到達しにくくなるため、水稲の**株元に確実に薬剤が届くよう散布する。**
散布後は必ず薬剤の効果を確認すること。効果が認められない場合は追加防除を行う。
 - (4) 農薬の使用に当たっては、農薬の使用基準を厳守し飛散防止に努める。

